

平成25年度事業計画

自平成25年4月1日
至平成26年3月31日

事業計画概要

公益財団法人として2事業年度目にあたり、個々実施事業の公益性にしっかりと留意しつつ、「環太平洋学術研究奨励事業」、「北京日本学術研究センターとの共同事業」、「当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を行う事業」の3つの公益事業を着実に遂行する。

1 環太平洋学術研究奨励事業

(1) 第29回大平正芳記念賞 2件と特別賞1件 クリスタル牌、
賞金 250万円

①梶谷 懐氏(神戸大学大学院経済学研究科准教授)

『現代中国の財政金融システム—グローバル化と中央-地方
関係の経済学』名古屋大学出版会 2011年

②川上 桃子氏(日本貿易振興機構 アジア経済研究所)

海外研究員 海外調査員(台北)

『圧縮された産業発展—台湾ノートパソコン企業の成長メカ
ニズム』名古屋大学出版会 2012年

【特別賞】

①岡崎 匡史氏(日本大学大学院総合科学研究科 ポスト・ドクト
ラル・フェロー)

『日本占領と宗教改革』学術出版会 2012年

- (2) 第27回学術研究助成費 1件(出版助成) 助成費 100万円
 ①鈴木 早苗氏(日本貿易振興機構 アジア経済研究所 研究員)
 『合意形成モデルとしてのASEAN—国際政治における
 議長国制度』東京大学出版会
- (3) 鈴木三樹之助記念 岩手大学大学院奨学金支給事業
 1件 奨学金(年額) 50万円
 ①呉 珊(ウ シャン)氏 生物資源科学専攻 生物機能開発学
 連合講座(博士課程)在籍
 テーマ：中国豆板醤製造法と日本味噌製造法による加工法の
 異なる豆類発酵加工品の理化学特性と栄養機能性に
 関する研究

*故大平元総理の岳父である鈴木三樹之助氏により設立された、財団法人三木育英会の事業を受け継ぎ、岳父の故郷である東北圏の大学大学院において、「環太平洋連帯構想」を発展させるのに相応しい政治・経済・文化・科学技術に係る優れた研究を専攻する者のうち、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学資金の支給を行う事業。昨年、同財団の解散に係る主務官庁(岩手県)の認可を得て、残余財産の清算が完了、当財団への寄附が完了したことを受け、本年度より支給を開始する。

2 北京日本学研究センターとの共同事業

「大平コーナー」運営推進事業の一環として

- (1) 第八回「日本語優秀学位論文大会」の開催
- (2) 日本学術名著の翻訳・発行(教材)事業(7年度目)の実施
 北京日本学研究センター在籍生はもとより、日本に関心を持つ、大学学部生・専門学校生、高等学校生にも理解しやすい著作を選定し、発行を行う。
 本年度は、中国における日本に対する理解の促進を目的として、昨年度取り上げた、グローバルな視点で捉えた卓見溢れる日本通史と評価されている、元駐日大使エドウィン・O・ライシャワー氏著『Japan: The story of a Nation』(日本語訳タイトル:ライシャワーの日本史)について、著作権の問題が解決次第、実施する。

3 当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を行う事業

(1) 図書の制作と無償配布を行う事業

昨年6月に『大平正芳全著作集』最終第7巻を刊行し、全国190箇所の大学附属図書館及び香川県下63箇所の高校・公立図書館に無償配布を行った後の対応として、当著作集の内容に係る各方面からの照会、マスメディアによるテレビ番組への引用の要望等に的確に対応することを通じて、当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を図る。

(2) 大平正芳記念館運営事業

- ① 記念館所蔵の資料について、経年による劣化の防止を図る観点から、国立国会図書館憲政資料室への移管を行うとともにDVD化を図り、現物展示から映像資料提供への移行を完了させる(23年度からの継続事業)。

(3) 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット及び「大平正芳記念財団レポート」発行と無償配布の事業

- ① 「大平正芳記念財団の事業」パンフレットの発行
 - ア 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット
 - イ 「大平正芳記念財団の事業活動」(平成24年6月から同25年5月まで)リーフレット
- ② 「大平正芳記念財団レポート」第31号の発行